

『元気な街 もりおか』、 新しい飛躍に向けて



【座談会出席者】

(写真前列中央)

会 頭／元持勝利 (岩手トヨペット(株) 代表取締役社長)

(後列右から)

副会頭／高橋三男 (株岩手ホテルアンドリゾート 専務取締役)

玉山 哲 (株東山堂 代表取締役社長)

谷村邦久 (みちのくココ・コーラボトリング(株) 代表取締役社長)

小暮信人 (医療法人友愛会 盛岡友愛病院 副理事長)

【司会進行】

古澤眞作 (盛岡商工会議所 専務理事)



2010年11月1日の総会により元持会頭と新たに2人の副会頭が選任されました。平成25年10月末までの3年間、盛岡商工会議所の牽引役として、地域経済の各種課題をどのように捉え、会議所としてどのように取り組んでいくべきなのか。地域の活性化に向けて、新しい体制となった執行部の考えや思いなどを伺いました

古澤 ● 新年を迎え、新たな体制でスタートを切ることにになりました。通常なら、ホップ、ステップ、ジャンプとなりますが、今年はずき年ですから、ぜひ、ジャンプ、ジャンプ、ジャンプで飛躍していきたい(笑)と思います。まずは、新年にあたって会頭からひとことお願いします。**元持** ● 明けましておめでとうございます。会頭という要職に就任して2ヶ月、商工会議所のトップとして地域を取り巻く課題に対応していかなければならない重責を強く感じております。こうした緊張感からこれまでと違った新年を迎えました。私は、当商工会議所に所属する約4千の会員の皆さんに対し、いろんな意味で「利益をもたらず」ことができるとともに頑張りたいという気持ちとともに、我々が暮

らすこの盛岡がもつと活力ある街になるよう『元気な街 もりおか』を目指していきたいと考えています。しかしながら、まだ日も浅く私は多くの意見は述べられませんが、各分野を担当する副会頭さんの意見や考えを伺い、認識を深めたいと思っておりますので、本日は存分に語り合っていたいただきたいと思います。 **古澤** ● 会頭から、会員の皆さんに利益が及ぶように事業や施策を進めたいとの話がありました。商工会議所の会員とはいえ、さまざまな業種があります。会頭就任のあいさつでも、まず商店街の活性化、工業振興、そして観光振興との3つのキーワードが話に出ました。それぞれの分野の現状や課題についてお聞きします。「まち」という

観点から玉山副会頭いかがですか？

「生活者」と「まち」が どう接点をもっていくか。

玉山●かつて、ロードサイドショップ等への対応のため、商店街は近代化を指向し、アーケードづくりなどに予算を投資してきました。

盛岡は、それぞれの商店街が特徴を活かして積極的に取り組みましたので、全国の市町村に比べてまだ賑わいがあるほうです。しかし、郊外型店舗がほとんどできることで、人の流れは分散し商店街における生活・文化・流通の拠点性が薄れてきています。また、人口が減少し、街の中心部に高齢者が増えてい



城下町盛岡には、古き佇まいの店先が、今もあちこちに残っています。

が極めて大事。市民が、商店街に何を求めているかを、私たち商業者や行政がきちんと受け止め、そのうえで必要とされるなら、駐車場などのハード整備に対応していく。生活者視点の姿勢が大事だと感じています。

会員の声を伝え

経営環境を見定める

古澤●では、工業面ではどうでしょう？谷村副会頭はどうお考えですか？

谷村●実際のところ、盛岡の製造業は、商業や卸売業に押されがちです。城下町としての歴史を考えれば、盛岡市が商業都市として発展してきた流れは最もなことです。しかし、円高による製造業の海外移転等が報道されていますが、地場の企業も、製造原価を極端に押さえ込むな

どして頑張っています。そうした経営姿勢を行政に知ってもらい、連携することも我々の役目と考えます。関税を撤廃して自由貿易圏をつくる構想のTPPの一件もあり、輸入品の関税が軽減されると、農業をはじめ一次産業に関わる岩手の経済全体が大打撃を受けるはず。一次産業は大きな分水嶺にさしかかっています。

元持●工業や製造業のもたらすメリットはとても大きいですが、雇用確保にもつながるし、ビジネス面での交流がさまざまな経済効果に結びつき、教育面や文化面への影響も大きい。そういう核となるような産業なり、事業が地域にとって非常に重要だと思っています。

北東北に向く 観光の目

古澤●昨年末に東北新幹線が青森まで延伸され、今年は、平泉の世界遺産に再チャレンジ、さらに来年度はJRのディスプレイネーションキャンペーンが岩手で展開されますが。

高橋●4年前になりますが、今年の春に続編の放映が決定したNHKの連続テレビ小説『どんど晴れ』の放映が始まった後、盛岡の観光客はぐんと増えました。しかし残念なことに、その

翌年の岩手・宮城内陸地震、平泉の世界遺産登録の見送りなど、岩手の観光にとって打撃が続き、観光客数も大幅に後退しました。いまだ、観光客数は4年前の水準に戻ってきていない現状があります。しかし、今年以降は毎年いい材料が揃っており、全国の観光客の目は明らかに北東北に向いています。まさに、千載一遇のチャンスだと思っています。

暮らしを支える 子供に笑顔を

古澤●暮らしやすさ、という点から見て盛岡はどうでしょうか。元持●他県からビジネスで訪れた方々も、生活の場としての盛岡に好印象を抱いています。ただに暮らしなら盛岡だと。それだけ地域としての素晴らしさを

有しているわけですから、とにかく盛岡にお越しいただく機会をどんどん作っていきましょう。小暮●私の立場からすると、安心で安全な街づくりには、医療や福祉面の充実が暮らしやすさの指標としてとても大事だと思います。各々の医療施設が連携しあって、地域医療がしっかりとできる街にしたいですね。福祉分野で言えば、市と商工会議所の取り組みである「子育て応援パスポート」の実績も参加会員も増えています。「元氣な街もりおか」に必要なことは、子どもたちが笑顔でいきいきと躍動感を持って暮らしている街です。それなら、盛岡を「全国で一番子育てがしやすい街」にしようといった目標を掲げてみるぐらいの勢いがあるのもいいと思います。



街の中心部に川が流れる風景もまた、盛岡の財産です。秋になると鮭が遡上する中津川の光景も、他の町にない観光情報の一つといえます。

古澤 ●ありがとうございます。それでは、この一年どのような活動をお考えですか？

玉山 ●例えば、今、盛岡市が策定した中心市街地活性化の取り組みの一つとして、河南地区の整備などが進んでいます。計画に対して経済状況の変化もあつて施設整備の見直しが必要となつてきています。桜山周辺の問題も浮上していますが、私たちが会議所としては、ハード面以前に、ソフト面の充実を図る必要があると考えています。

古澤 ●会議所がもっと関わつていく必要がある分野ですね。

玉山 ●ええ。街の中心部に商業エリアとしての拠点が生まれると、交流人口はおのずと増えてくる。商業関係は、実は会議所の会員数が一番多い分野なんです。ハードルは高いかもしれないけれど、この部分をクリアしていくと、ビジネスも大きく伸びるし、各会員の利益も増えていくのではないのでしょうか。

経済効果よりも

子どもたちに夢を与えるプロジェクト

古澤 ●会議所がもっと関わつていく必要がある分野という話がありました。

谷村 ●今、話題になっている国際リニアコライダー（ILC）が



『リニアコライダー誘致は、岩手に新しい価値を生む大きな可能性を秘めている』（谷村邦久副会頭）

実現すると経済価値は数千億円にのぼると試算されておりますが、どうしても利益誘導を優先して考えがちです。しかし、もっと大きな視点でとらえると、それが誘致実現されることで、岩手にどれほどの社会的・文化的価値が生まれ、科学拠点としてどんな可能性を持つことになるのか、私たち自身が理解しその意識を共有しておかないと、せっかくの話も頓挫する可能性があります。

古澤 ●将来の科学者や技術者が、

そこから育つかもしれない。大きな期待がありますね。

谷村 ●リニアコライダーに関する基礎知識を啓蒙するような広報チラシなども作成し、もっと地元の小中学生等にアピールすべき。商工業振興を考えると、つい専門分野にだけ発信すればいいと思いがちです。でも、リニアコライダーの誘致は利益ばかりでなく、夢も運んでくるんですよ。いいじゃないですか、周りを見れば山里ばかりだけど、地下にはすごい施設があるん

だ！と言えたら。

街づくりと

人の交流に果たす

会議所の役割

古澤 ●地域の活性化を図るためのきっかけとして、どのようなことが必要でしょうか。

玉山 ●たとえば、会議所は「もおか検定」を実施し、さらに昨年「観光コンシェルジュ」の役割を持ったタクシードライバーの育成に取り組みしました。その一方で、所得向上に向けた取

り組みも必要です。地産地消という言葉が普及してきましたが、商業面でも地場のものを買う仕組みづくりが大事なのではないのでしょうか。市民にも応援していただく姿勢も大切です。

谷村 ●地産地消をうたうなら、県や市では食の消費に限らず地元で社員を雇用し事業を行つている企業を優先的に使つて、地元経済を盛り上げてほしいものではない。効率ばかりでなく地域の企業や人を育てることが必



『これからは、ハコモノではなく商店街活動をいかに活性化していくかが大事』（玉山哲副会頭）

要だと思えますね。

高橋 ● イベントやコンベンションへの期待はふくらみます。たとえば、スポーツ面では、今年は盛岡で北東北インターハイがありますし、プロバスケットボール・bjリーグへの参戦が始まる。選手やサポーター、関係者などが宿泊することで交流人口が増えるのは明らかです。

谷村 ● 北東北インターハイに続き、国体の二巡目も数年後に生まれています。国体も単県開催の時代ではなくなっているのではないのでしょうか。岩手県もアマチュア団体や民間にのみまかせておいていい時代ではないはずです。花巻市などは、期待に応えられる施設がなかったからと、この時代にあえて大きな体育館をつくり、積極的に競技スポーツの開催や合宿など、大きなイベントの受け皿を用意しています。考え方の違いもあるかと思えますが、スポーツに対して盛岡はもう少し積極的でもないのではないのでしょうか。インフラは整っているんですから。

古澤 ● スポーツに限らず文化的なイベントなど、いろんな分野のコンベンションを盛岡に誘致することで、交流人口増に結びつく可能性が大きいですね。
小暮 ● 昨年も、医学分野の全国的な学会が盛岡で数々開催され



『医療や福祉の充実は、暮らしやすさの大切な指標です』
(小暮信人副会頭)

ました。今年も多くのイベントが開かれます。仕事で訪れた場合でも、県民や市民の温かいもてなしに感激して帰っていくと、今度は家族を連れてこようとなるのではないのでしょうか。
古澤 ● 小暮副会頭は、当所の「少子高齢社会」対策委員会の委員長としても活動いただきました。福祉面ではどうですか。
小暮 ● 高齢者が生活不安を解消し、この街に暮れば安心して話し手が近くにくいてくれる場や楽しく活躍できるようにする施設の充

実も必要ですね。私は病院と福祉施設を経営していますが、これからは待ち時間も楽しめる病院にしようと思っています。病院へお見舞いに来た方が、こちらなら家族を預けても大丈夫と思える明るさや楽しみがある場所づくりもしていかなければと思っています。特色ある行事食や地元の食材をとり入れた美味しい病院食の提供も大切です。12月には周辺にイルミネーションをつけて、視覚的にも楽しめる工夫をしています。

古澤 ● 盛岡は、文化水準が高い街ですから、いろんな楽しみ方がありますね。
小暮 ● ええ、市内の映画館通りに沢山の映画館があり、経営者としては大変です(笑)。盛岡は、演劇や音楽コンサートなどの公演が毎週のようにあって、文化水準がとても高い街ですね。映画に関していうなら、「みちのく国際ミステリー映画祭」「もりおか映画祭」と14年間も映画祭が開催されています。古い映画館をきちんと残したいですし、もっと映画ロケを誘致するなどして、全国に盛岡の城下町の良さをアピールしたいものです。「魅力ある、親かな街」を積極的にPRしたいですね。

盛岡をどうアピールするか、そこから始まる観光振興
古澤 ● 皆さんのお話を伺うと、一口に街づくりといっても、非常にたくさんさんの切り口があることを感じます。会頭は、これまでの皆さんの発言を受けていかがですか。
元持 ● 岩手県の人はアピール下手だと言われますが、東北6県の中で、一番北にある青森は全国的にも広く認知されています。他県の人に聞くと、秋田や宮城も印象深いようですが、福島や岩手はなかなか名前もイメージも出てこないんですね。良いものが沢山ある岩手の定住人口を増やしていくには、魅力発信



郊外型の大型店舗とは違ったアイデアで、人が集まる仕掛けを考える大通商店街。

が先か、受け皿となる職場の確保が先か。またどんなアプローチ方法があるかを考えていく必要があります。

古澤 ● そうですね。仮に今年を「盛岡アピール元年」と考え、知ってもらうためのヒントはないでしょうか。

玉山 ● 昨年末、政府の方針で個別の補助金制度がなくなり、「一括交付金」にすることが決定しました。これによって自治体の役割と責任は大きく変わり、私たち経済団体や企業間のパートナーシップがより一層大事になってきます。たとえば、農家などの古い家屋を活用し定住人口を増やしていくという自治体もありますが、盛岡でも地域の特徴を活かす取り組みがあつていいと思います。そして、その活動を発信していく。誰に対して何を発信するサイトかによって情報発信の方法は全く変わってきます。観光情報に留まらず、先ほどの医療情報など、住みやすい街としてあらゆる生活情報が網羅されているとか。会議所自体も縦割りでなく組織全体で情報共有をし、柔軟な姿勢で会員が必要とする働きをすることで、自らの存在意義を認知させる活動をしていく時期に来ているのではないのでしょうか。

古澤 ● 谷村副会頭はどうですか。

谷村 ● 岩手県は境界ばかりでなく、文化や芸術、スポーツなど多方面にわたって、本当に多くの人材を輩出しています。昔は岩手と言うと肩身が狭かったけれど、今では食料自給率が高いし、方言だって恥ずかしくもない。何より自然環境がすばらしい。今や、岩手から首都圏に行っている学生は鼻が高いはずで、真の意味で、豊かな暮らしをしている県ですから。観光客のリピーターを増やすことも、実はそんなに難しいことではないんです。奈良の人々は、市民一人ひとりに至るまで自分たちの住んでいる町の歴史や地理を良く知っているといます。盛岡のタクシードライバーさんも頑張っています。町に暮らす一人ひとりがコンシェルジュのようにならなくては。本当に小さなことでいいから、自分が暮らす町に自信を持って発信していくべきです。こういった民力が世界遺産登録にあたって重要な要素と聞いたことがあります。

小暮 ● 盛岡市は、美しい自然に恵まれた街です。街に何か大がかりな施設をつくる前に、観光客や仕事で来盛した人達が驚くような、きれいで立派なトイレを数カ所造ったら話題になるのでは。それからわかりやすい案

内板や歴史のある建物の紹介板を見やすい場所に建てるとか。また、市内に利用しやすい駐車場も必要です。訪れた人の視線で考えると、アプローチにもいいようなアイデアも浮かびますね。**高橋** ● たとえば、平泉の藤原まつりなどは、有名芸能人を呼ぶことで、大きな集客効果が生まれています。チャグチャグ馬コも、お客様が目で見えて楽しめる要素をもう一つ加えてみると、さらに集客力が増すかもしれませんね。観光誘致に力を入れる

と言うのは簡単ですが、じゃあどう集めるか。当然、全国47都道府県が観光誘致に乗り出しているわけですから。そこで重要になるのは、先ほど述べたコンベンション誘致という切り口と考えます。盛岡開催の全国大会に参加した方が盛岡の素晴らしいに、触れ、次には家族でやってくる、それが観光客を呼ぶ一つのアプローチにもなるわけです。

古澤 ● その通りですね。今年、小岩井農場も開園120周年。何かしら盛岡市に注目が集まる

年です。今話に出てきたコンベンションなどを通じて息の長い交流人口の増に努めることが、盛岡らしいかもしれないですね。実際に訪れた方々の反応などはどうですか。

高橋 ● まず、食べ物が美味しいことですね。そして、盛岡の人の心の深さ。さらに、街の佇まいや山々の借景に感動されています。盛岡ブランドを広めると、いう観点で、他地域におけるブランド推進の成功例を見ると、地域名と商品が一致しているパターンが多い。盛岡の場合は、南部の冠のほうが有名でしょう。会議所が関わった「津志田いも焼酎」も、地元人なら産地がわかりますが、全国を視野に入れた場合、どこの津志田かわからない。盛岡という名前のついた商品が全国に流通していくことによって、もっと盛岡のイメージが全国に浸透することにつながるのではないのでしょうか。

古澤 ● 盛岡は食材が豊富で、B級グルメとは違った価値のある食材が多いように思いますね。

元持 ● 盛岡は景色や環境などを含めて、とても贅沢な中で暮らしている。料理も非常にいいものを普通に食べているから(笑)、ゴージャスな食材をもっとアピールしなければいけませんね。

高橋 ● 盛岡市内のホテルでは、



『今、観光の目は北東北に。
千載一遇のチャンス
どう生かすか!』 (高橋三男副会頭)

出来るだけ地産のものはその産地をメニューに記すようにしています。メニューから料理を記憶することは大事なことです。メニューに「三陸山田湾からの産地直送のカキです」なんてあると印象が違いますよね。

古澤●そこにさらにストーリー性が加わると印象に残りますし、誰かに伝えやすいですね。

会議所も、新しい飛躍に向け まずは意思を示し、行動を！

古澤●では、盛岡が良くなるためにどうしたらよいか、それぞれに感じる問題点、今後に望む取り組みがあると思いますが。

谷村●観光面の話が出ましたが、昨年、台湾で『どんど晴れ』が再放送され、ずいぶん好評だったと聞きます。インバウンドへの対応も大切です。また最近の動きで農商工連携がありますが、農商工連携とはいっても、誰もがそう簡単にできるものではありません。これは会議所の事務局にも望むことですが、農業なら農業でどこの団体の誰に話をつなぐべきか、入り口をきちんと整理するなどして基本的な情報を明示してほしいものです。

古澤●了解しました。地元のものを使って地元のを創りあげ、私たち自身もさまざまな分野を勉強して、行政に対して



『得意分野を生かし、
まずは実行を!』 (元持会頭)



『今年は、さらに開かれた会議所へ
一歩を進めましょう』 (古澤眞作専務理事)

きちんとものを言っていくべきですね。

玉山●盛岡市の10カ年計画も出ておりますが、では10年先ではなく3年後にどうしたいのかが見えてこない。そんな状況で街づくり計画をつくり進められては困ります。私たち産業団体や会議所の役割として、もっと行政にも意見を示し、行動をしていく必要があると思っています。

古澤●盛岡は歴史や伝統を尊び、ある意味守られてきたものも多く、恵まれた環境があったかも

しれません。しかし、そうも言うてられないですからね。

谷村●はい。何を進めるにしろ、計画の可視化が必要だと思いますね。プラン作成段階はもちろん、実行段階においても進捗状況等については常にオープンでなければいけない。会議所としても商工業のみならず市民の声の代弁者として、声を発してもいいのではと思います。腹をすえてしっかりと議論する、それが大事なことです。

玉山●私はよく中津川を散歩す

るのですが、毎日風景が違うんです。道々で出会う散歩仲間とうとうという気持ちも共有できる。市民運動は、思いが共有されることで自然に始まってくるんです。会議所として、「こういう盛岡にしたい!」という思いがあるなら、一歩ずつ前進していくはずですよ。

古澤●最後に元持会頭から一言お願いします。

元持●会議所自体がもっと議論したり、会員同士がコミュニケーション

ーションを深める必要がありますね。今年は、さらに開かれた会議所へ一歩を進めましょう。今日は、いろんなことを話していただきました。最後は実行あるのみです。しかし、何をやるにしても「人の和」が大切だと思います。それぞれ会員の皆さんにも得意分野があるので、それを結集して実行していきましよう。本年が意気揚々とした1年となるよう、力を合わせてがんばりましょう。

取材／SANS A企画編集委員会